

介護予防短期入所生活介護事業運営規程

第1章 総 則

(目的及び基本方針)

第1条 この規程は、社会福祉法人 姫路尚歯会が設置運営する介護予防短期入所生活介護事業運営及び利用について必要な事項を定め、事業所の円滑な運営を図ることを目的とする。介護予防サービスに該当する短期入所生活介護（以下「介護予防短期入所生活介護」という。）の事業は介護予防短期入所生活介護を受ける者（以下「利用者」という。）が可能な限りその居宅において、その有する能力の維持・改善を図り、自立した日常生活を営むことができるよう、入浴、排泄、食事等の介護その他日常生活の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の心身機能の維持並びに利用者の家族の身体及び精神的負担の軽減を図る。

- 2 利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供努める。
- 3 事業を運営するに当たり、地域と家族との結びつきを重視し、保険者、介護予防支援事業者、介護予防サービス事業者、その他の保健医療サービス及び福祉サービスを提供 する者との連携に努める。
- 4 事業を運営するに当たり、利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、必要な体制の整備を行うと共に、従業者に対し、研修を実施する等の措置を講じる。
- 5 介護予防短期入所生活介護の提供にあたっては、介護保険法第 118 条の2 第1項に規定する介護保険等関連情報その他必要な情報を活用し、適切かつ有効に行うよう努める。

(事業所の名称等)

第2条 名称及び所在地は次のとおりとする。

- (1) 名称 ライフビラ姫路
- (2) 所在地 兵庫県姫路市飯田3丁目44番地

(利用定員)

第3条 事業所の利用定員は、10名とする。(介護給付者を含む)

第2章 従業者及び職務内容

(従業者の区分及び職務内容)

第4条 事業所に次の従業者を置く。(併設介護老人福祉施設従業員も含む。)

- (1) 管理者(施設長) 1名(介護老人福祉施設、通所介護事業の管理者と兼務)
- (2) 事務員 3名以上
- (3) 生活相談員 1名以上
- (4) 介護職員 常勤換算で21名以上
- (5) 看護職員 常勤換算で3名以上
- (6) 機能訓練指導員 1名以上
- (7) 介護支援専門員 1名以上
- (8) 医師 1名以上(嘱託)
- (9) 栄養士又は管理栄養士 1名以上

2 前項に定めるものの他必要がある場合は、定員を超え又はその他の従業者を置くことができる。

(1) 管理者(施設長)

施設の業務を統括する。施設長に事故があるときは、あらかじめ理事長が定めた従業者が施設長の職務の代行をする。

(2) 事務員

施設の庶務及び会計事務に従事する。

(3) 生活相談員

利用者の入退所、生活相談及び援助の企画立案、実施に従事する。

(4) 介護職員

利用者の日常生活の介護、相談及び援助業務に従事する。

(5) 看護職員

医師の診療補助及び医師の指示を受けて利用者の看護、保健衛生業務に従事する。

(6) 機能訓練指導員

利用者の機能回復、機能維持及び予防に必要な訓練及び指導に従事する。

(7) 介護支援専門員

利用者の介護支援に関する業務に従事する。

(8) 医師

利用者の診療及び事業所の保健衛生の管理指導に従事する。

(9) 栄養士又は管理栄養士

給食管理、利用者の栄養指導に従事する。

(10) 調理員

栄養士の指示を受けて給食業務に従事する。

2 従業者毎の事務分掌及び日常業務の分担については、管理者が別に定める。

第3章 介護予防短期入所生活介護の内容及び利用料

(介護予防短期入所生活介護の内容)

第5条 介護予防短期入所生活介護の内容は次のとおりとする。

(1) 身体介護

毎週月曜日から土曜日に入浴、清拭を行い、排泄には適切な見守り一部介助、全介助を行う。離床、着替え、整容その他日常生活上の世話を適切に行う。従業者以外に介護を行わせない。

(2) 食事の提供

利用者に提供する食事はできるだけ変化に富み、十分なカロリーと栄養成分を含み且つ調理にあたっては利用者の嗜好を十分に考慮し、消化、吸収の実をあげるように努める。利用者の食事は、自立の支援を目指し、出来るだけ離床して食堂で喫食するように配慮する。

(3) 健康管理

管理者又は医師及び看護婦は常に利用者の健康に留意し、必要に応じて検査等を実施し、適切な措置を講ずると共にその記録を整備しておくものとする。

(4) 機能訓練

利用者の心身の状況を把握し、必要に応じて日常生活を送る上で必要な生活機能の改善又は維持のための機能訓練を行う。

(5) 相談・援助

常に利用者の心身状況その置かれている環境等の的確な把握に努め、利用者又は家族からの相談に応じると共に、適切な助言、必要な援助を行う。

(6) 社会生活上の便宜の提供等

教養娯楽設備等を備えるほか、適宜レクリエーション行事を行う。又、常に利用者の家族との連携を図るとともに利用者とその家族との交流の機会を確保するよう努める。

(7) 利用者に関する保険者への通知

介護予防短期入所生活介護を受けている利用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、遅滞なく、意見を付してその旨を保険者に通知する。

イ 正当な理由なしに介護予防短期入所生活介護の利用に関する指示に従わないことにより要支援状態等の程度を増進させたと認められるとき。

ロ 偽り、その他不正な行為によって保険給付を受け、又は受けようとしたとき。

(介護予防短期入所生活介護の利用料及びその他の費用)

第6条 介護予防短期入所生活介護の利用料は介護報酬の告示上の額とする。

(1) 自己負担額としては保険より支払われる額を差し引いたものを徴収する。

(2) 滞在費(別表のとおり)

① 個室

② 多床室(2人・4人部屋)

- (3) 食費（別表のとおり）
 - (4) ご契約者が選定する特別な居室の提供を行ったことに伴い必要となる費用を徴収する。
 - (5) ご契約者が選定する特別な食事の提供を行ったことに伴い必要となる費用を徴収する。
 - (6) 理美容代、新聞代等の使用負担費を徴収する。
 - (7) 送迎に要する費用（通常送迎を実施する地域外の場合）
 - (8) 前各号に掲げるもののほか、介護予防短期入所介護において提供される便宜のうち、日常生活においても通常必要となるものに係る費用であって、その利用者に負担させることが適当と認められるもの。
- 2 前項に掲げる費用の額に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、利用者またはその家族に対し当該サービスの内容及び費用について説明を行い、利用者の同意を得なければならない。

（送迎の実施地域）

第7条 通常送迎を実施する地域は次のとおりとする。

- (1) 姫路市

第4章 運営に関する事項

（サービス利用の留意事項）

第8条 利用者が介護予防短期入所生活介護の提供を受ける際に、利用者側が留意すべき事項を重要事項説明書で説明し、同意を得る。

（内容、手続き説明及び同意）

第9条 介護予防短期入所生活介護の提供の開始に際し、あらかじめ利用申込者又はその家族に対し、運営規程の概要、従業員の勤務体制、その他利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を記した文書を交付して説明を行い、サービスの内容及び利用期間等について利用申込者の同意を得る。

（介護予防短期入所生活介護の開始及び終了）

- 第10条 利用者の心身の状況により、若しくはその家族の疾病、冠婚葬祭、出張等の理由により、又は利用者の家族の身体及び精神的な負担の軽減等を図るために、一時的に居宅においての日常生活を営むのに支障がある者を対象に、介護予防短期入所生活介護を提供する。
- 2 介護予防支援事業者その他保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携により、介護予防短期入所生活介護の提供の開始から終了後に至るまで利用者が継続的に保健医療サービス又は福祉サービスを利用できるよう必要な援助に努める。

(提供拒否の禁止)

第 1 1 条 介護予防短期入所生活介護の利用申込みがされた場合は、正当な理由なく介護予防短期入所生活介護の提供を拒まない。

(サービス提供困難時の対応)

第 1 2 条 通常の事業の実施地域などを勘案し、利用申込者に対し自ら適切な介護予防短期入所生活介護を提供することが困難であると認めた場合は、当該利用申込者に係る介護予防支援事業者への連絡、適切な他の介護予防短期入所生活介護事業者等を紹介し、その他必要な措置を速やかに講じる。

(受給資格等の確認)

第 1 3 条 介護予防短期入所生活介護の提供を求められた場合は、その者の提示する被保険者証によって、被保険者資格、要介護認定等の有無及び要介護認定等の有効期限を確認める。

- 2 前項の被保険者証に認定審査会意見が記載されているときは、その趣旨及び内容に沿って、介護予防短期入所生活介護を提供するよう努める。

(要介護認定等の申請等に係る援助)

第 1 4 条 介護予防短期入所生活介護のサービス提供の開始に際し、要介護認定等を受けていない利用申込者については、要介護認定等の申請が既に行われているか否かを確認し、申請が行われていない場合は、当該利用申込者の意向を踏まえて速やかに当該申請が行われるよう必要な援助を行う。

- 2 介護予防サービス計画が作成されていない場合には、要介護認定等の申請が、遅くとも現在の要介護認定等の有効期間が終了する 30 日前には行われるように、必要な援助を行う。

(心身の状況の把握)

第 1 5 条 介護予防短期入所生活介護の提供に当たっては、利用者に係る介護予防支援事業者が開催するサービス担当者会議等を通じて、利用者の心身の状況、その置かれている環境、他の保健医療サービス又は福祉サービスの利用状況等の把握に努める。

(法定代理受領サービスの提供を受けるための援助)

第 1 6 条 介護予防短期入所生活介護の提供の開始に際し、介護予防サービス計画が作成されていない場合には、当該利用申込者又はその家族に対し、介護予防サービス計画の作成を介護予防支援事業者に依頼する旨を保険者に対して届け出ること等により、介護予防短期入所生活介護の提供を法定代理受領サービスとして受けることができる旨を説明する。

- 2 介護予防介護支援事業者に関する情報を提供すること。その他の法定代理受領サービスを行うための必要な援助を行う。

(介護予防サービス計画等に沿ったサービスの提供)

第17条 介護予防サービス計画が作成されている場合は、当該計画に沿った介護予防短期入所生活介護を提供する。

(サービス提供の記録)

第18条 介護予防短期入所生活介護を提供した際には、当該介護予防短期入所生活介護の提供日及び内容、当該介護予防短期入所生活介護について利用者に代わって支払いを受ける介護予防サービス費又は介護予防支援サービス費の額その他必要な事項を、利用者の介護予防サービス計画を記載した書面又はこれに準ずる書面に記載する。

(保険給付の償還請求のための証明書の交付)

第19条 法定代理受領サービスに該当しない介護予防短期入所生活介護に係る利用料の支払いを受けた場合には、提供した介護予防短期入所生活介護の内容、費用額その他必要と認められる事項を記載したサービス提供証明書を利用者に対して交付する。

(介護予防短期入所生活介護の取扱方針)

第20条 介護予防短期入所生活介護は、利用者の要支援状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、認知症の状況等利用者の心身の状況を把握して、日常生活に必要な援助を適切に行う。

- 2 介護予防短期入所生活介護を行うに当たっては、相当期間以上にわたり継続して入所する利用者については、介護予防短期入所生活介護計画に基づき、利用者の機能訓練及びその者が日常生活を営む上で必要な援助を行う。
- 3 介護予防短期入所生活介護の提供にあたっては、懇切丁寧を旨とし、利用者又はその家族に対し、サービスの提供方法等について、理解しやすいように説明を行う。
- 4 自らその提供する介護予防短期入所生活介護の質の評価を行い、常にその改善を図る。

(サービス計画の作成)

第21条 管理者は、相当期間以上にわたり継続して入所することが予想される利用者については利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を把握して、介護予防短期入所生活介護の提供の開始前から終了に至るまでの利用者が利用するサービスの継続性を念頭に、サービスの提供に当たる他の従業者と協議の上、サービス目標、達成時期、サービス内容及び留意事項をもちこんだ介護予防短期入所生活介護計画を作成する。

- 2 管理者は、介護予防短期入所生活介護計画を作成する場合には、それぞれの利用者に応じた計画を作成し、利用者又はその家族に対し、その内容などについて説明し同意を得る。
- 3 介護予防短期入所生活介護計画の作成に当たっては、既に介護予防サービス支援計画が作成されている場合には、当該計画の内容に沿って作成する。
- 4 介護予防サービス支援計画を作成している指定介護予防支援事業者(地域包括支援センター、指定居宅介護支援事業者)から介護予防短期入所生活介護計画の提供の求めがあった際には、当該計画を提出することに協力するように努めるものとする。

(閲 覧)

第 2 2 条 介護予防短期入所生活介護を行う事業所の閲覧可能な場所に、運営規程の概要、従業者の勤務体制、協力病院、利用料その他のサービスの選択に資すると認められる重要事項をファイル等にて備え置く。

(秘密保持等)

第 2 3 条 介護予防短期入所生活介護事業に従事する従業者及び従業者であった者は、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らさない。

(介護予防支援事業者に対する利益供与の禁止)

第 2 4 条 介護予防短期入所生活介護事業者は、介護予防支援事業者並びにその従業者に対し特定の利用者によるサービスを利用させることの代償として、金品その他の財産上の利益の供与を行わない。

(苦情処理)

第 2 5 条 提供した介護予防短期入所生活介護に係る利用者からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、相談窓口を設置し苦情の内容に配慮して必要な措置を講じる。

2 提供した介護予防短期入所生活介護に関し、保険者又は国民健康保険団体連合会から指導 又は助言を受けた場合においては、当該指導又は助言に従って必要な改善を行う。

(衛生管理等)

第 2 6 条 利用者の使用する施設、食器その他の設備又は飲用水等について、衛生的な管理に努め、又衛生上必要な措置を講じる。

2 感染症及び食中毒が発生し、又は蔓延しないよう、感染症予防委員会を設置し、次の措置を講じるものとする。

- (1) 感染症予防委員会をおおむね 3 月に 1 回以上開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図る。
- (2) 介護予防短期入所生活介護における感染症の予防及びまん延の防止のための指針を整備
- (3) 従業者に対する感染症を防止するための研修及び訓練の実施
- (4) 3 号に掲げるもののほか、「厚生労働大臣が定める感染症又は食中毒の発生が疑われる際の対処等に関する手順」に沿った対応を行う。

(会計区分)

第 2 7 条 介護予防短期入所生活介護の事業の根拠となる事業所ごとに経理を区分するとともに介護予防短期入所生活介護事業の会計と他の事業の会計を区分する。

(記録の整備)

第 2 8 条 設備、備品、従業者及び会計に関する諸記録を整備しておく。

2 利用者に対する介護予防短期入所生活介護の提供に関する諸記録を整備し、その完了の日から 5 年間保存する。

第5章 緊急時における対応方法

(緊急時における対応)

第29条 現に介護予防短期入所生活介護の提供を行っているときに利用者の病状の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに主治の医師又はあらかじめ事業者が定めた協力医療機関への連絡を行うなどの必要な措置を講じる。

(事故発生時の対応)

第30条 利用者に対する介護予防短期入所生活介護の提供により事故が発生した場合は、保険者、当該利用者の家族、当該利用者に係る介護予防支援事業者等に連絡を行うとともに必要な措置を講じる。

- 2 利用者に対する介護予防短期入所生活介護の提供により賠償すべき事故が発生した場合は損害賠償を速やかに行う。

第6章 非常災害対策

(非常災害対策)

第31条 非常災害に備えて避難、救出、夜間想定を含めその他必要な訓練を年2回以上実施する。消防法に準拠して消防計画を別に定め、水防法に準拠して洪水時の避難確保計画を別に定める。

- 2 介護予防短期入所生活介護は、前1項に規定する訓練の実施に当たって、地域住民の参加が得られるよう連携に努めるものとする。

第7章 その他運営に関する事項

(身体拘束の制限)

第32条 介護予防短期入所生活介護の従業者は、身体拘束その他利用者の行動を制限する行為（以下「身体拘束等」という。）を行わない。ただし、当該利用者又は他の利用者の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除く。

- 2 前項の規定による身体拘束等を行う場合には、あらかじめ利用者の家族に、利用者の心身の状況、緊急やむを得ない理由、身体拘束等の態様及び目的、身体拘束等を行う時間、期間等の説明を行い、同意を文章で得た場合のみ、その条件と期間内において行うことができる。
- 3 前各項の規定による身体拘束等を行う場合には、管理者及び生活相談員、介護従業者により検討会議等を行う。また、経過記録を整備する。

(個人情報の保護)

第33条 介護予防短期入所生活介護は、利用者の個人情報について「個人情報保護法に関する法律」及び厚生労働省が策定した「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイドライン」を遵守し、適切な取り扱いに努める。

- 2 介護予防短期入所生活介護が得た利用者の個人情報については、本事業所での介護サービスの提供以外の目的では原則的に利用しないものとし、外部への情報提供については、必要に応じて利用者又はその代理人の了解を得る。

(虐待に関する事項)

第34条 介護予防短期入所生活介護は、利用者の人権の擁護・虐待の防止等のため、虐待の防止のための検討委員会を設置し、次の措置を講じるものとする。

- (1) 専任の虐待防止対策担当者を配置
 - (2) 虐待防止のための指針を整備
 - (3) 従業者に対する虐待を防止するための研修の実施
 - (4) 虐待等について利用者及びその家族が相談、従業者が報告できる体制の整備
- 2 介護予防短期入所生活介護は、サービス提供中に、当該事業所又は養護者による虐待を受けたと思われる利用者を発見した場合は、速やかに、これを市町村に通報するものとする。

(業務継続計画の策定等)

第35条 介護予防短期入所生活介護は、感染症や非常災害の発生時において、利用者に対する介護予防短期入所生活介護の提供を継続的に実施するための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画（以下「業務継続計画」という。）を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講じるものとする。

- 2 介護予防短期入所生活介護は、従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的に行うものとする。
- 3 介護予防短期入所生活介護は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行うものとする。

(認知症介護に係る基礎的な研修の受講)

第36条 介護予防短期入所生活介護は、全ての従業者（看護師、准看護師、介護福祉士、介護支援専門員、介護保険法第8条第2項に規定する政令で定める者等の資格を有する者その他これに類する者を除く。）に対し、認知症介護に係る基礎的な研修を受講させるために必要な措置を講じるものとする。また、従業者の資質向上のために研修の機会を次のとおり設けるものとし、業務の執行体制についても検証、整備する。

- (1) 採用時研修 採用後4ヵ月以内
- (2) 継続研修 年1回

(ハラスメント対策)

第37条 介護予防短期入所生活介護は、適切な介護予防短期入所生活介護の提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であって業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業者の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講じるものとする。

(暴力団員等の排除)

第38条 介護予防短期入所生活介護において、管理者は、姫路市暴力団排除条例（平成24年姫路市条例第49号）第7条の暴力団員又は暴力団若しくは暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有する者であってはならない。

2 介護予防短期入所生活介護は、その運営について、姫路市暴力団排除条例第7条の暴力団及び暴力団員並びにこれらのものと社会的に非難されるべき関係を有する者の支配を受けてはならない。

3 介護予防短期入所生活介護は、サービスの提供にあたり、サービス利用する者または身元引受人（または代理人）が次の各号に該当しないことを確認し、かつ将来にわたっても該当しないことを確認する。該当していると判明した場合は催告無しに直ちに契約解除する。

（1）現在、暴力団・暴力団員、暴力団員でなくなった時から5年を経過しない者、暴力団準構成員・暴力団関係企業・総会屋等・社会運動等標榜ゴロまたは特殊知能暴力集団等、その他これに準ずる者（以下、これらを「暴力団員等」という）。

（2）暴力団員等が経営を支配している或いは実質的に経営に関与していると認められる関係を有すること。

（3）自己、自社もしくは第三者の不正の利益を図る目的または第三者に損害を加える目的を以てするなど、不当に暴力団員等を利用していると認められる関係を有すること。

（4）暴力団員等に対して資金等を提供し、または便宜を供与するなどの関与をしていると認められる関係を有すること。

（5）暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有すること。

(法令との関係)

第39条 この規程に定めのないことについては、厚生労働省令並びに介護保険法の法令に定めるところによる。

付 則

この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。変更申請（別表 1. 居住費一部改定）

この規程は、平成 28 年 12 月 1 日から施行する。

変更申請（第 20 条一部改定。第 28 条一部改定。第 32 条、第 33 条、
第 34 条追加。）

この規程は、平成 29 年 11 月 1 日から施行する。変更申請（第 21 条 4 項追加）

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

変更申請（第 1 条 4 項、5 項追加。第 4 条 1 項、2 項一部改定。
第 5 条 1 号一部改定。第 22 条改定。第 26 条 2 項追加。
第 31 条一部改定、2 項追加。第 34 条 1 項一部改定。
第 35 条、第 36 条、第 37 条追加。）

この規程は、令和 6 年 1 月 1 日から施行する。変更申請（第 36 条一部改定。第 38 条追加。）

別 表

1. 滞在費

- (1) 本規程第6条第1項第2号に定める滞在費の額は下記のとおりとする。

従 来 型 個 室	多 床 室
1,150 円／日	530 円／日

- (2) 本規程第6条第1項第2号に定める滞在費の額について介護保険負担限度額認定者については下記のとおりとする。

	従 来 型 個 室	多 床 室
利用者負担第3段階	820 円／日	370 円／日
利用者負担第2段階	420 円／日	370 円／日
利用者負担第1段階	320 円／日	0 円

2. 食費

- (1) 本規程第6条第1項第3号に定める食費の額は下記のとおりとする。

食 費
1,440 円／日

- (2) 本規程第6条第1項第3号に定める食費の額について介護保険負担限度額認定者については下記のとおりとする。

	多 床 室
利用者負担第3段階	650 円／日
利用者負担第2段階	390 円／日
利用者負担第1段階	300 円／日